バスドラム

バスドラムのヘッドには本皮のものとプラスチックのものがあります。
コーティング処理をして本皮のニュアンスを出すモデルもありますが、材質はプラスチックです。
ここではまずプラスチックヘッドを基本に説明します。

裏側、表側（打面）ともロッド（図 Ⓐ）を全体に力が加わらなくなるまでゆるめてください。
べろんべろんになっても（図 Ⓑ）心配せず、どんどんゆるめましょう。
ここで打面の中心をマレットで叩くと、もちろんべろ～んという音になりますよね。
ここから少しずつロッド（図 Ⓐ）を締めて、少し強く叩いてもべろ～んと鳴らなくなるまで張ってみましょう。
表側（打面）も裏側も同程度でよいです。

基本チューニングはこれでＯＫです。
セクションの皆さんで聴き合って、「もう少し張ったほうが…？」
「ちょっと張りすぎでは…？」と意見を出し合い、納得できる位置を見つけ出してください。
裏側のヘッドは、ゆるめに張ると余韻が長くなり、きつめに張ると余韻が短くなりますが、表側（打面）と同じ張り具合よりも、少しゆるめがよいと思います。
あまり差があると、強く叩いたときに楽器が鳴りにくくなるので注意しましょう。

演奏時、チューニングと同じくらい大切なのはマレットとの相性です。

図 Ⓒ は 36 インチのバスドラムですが、マレットはこの程度の大きさで十分です。
バスドラムは中心を叩くことで一番低く、まとまった音を創れます。打点の基本は中心付近をお勧めします。
これはトレモロのときも同様で、中心でトレモロをするのは少々難しいですが（図 Ⓓ）ぜひチャレンジしてください。
図 Ⓔ の位置ですと、深みのあるトレモロはなかなか出ません。

ヘッドの交換時期についてはそれほど神経質にならなくても大丈夫ですが、
何年も経っているものは弾力がなくなってしまうので交換が必要です。